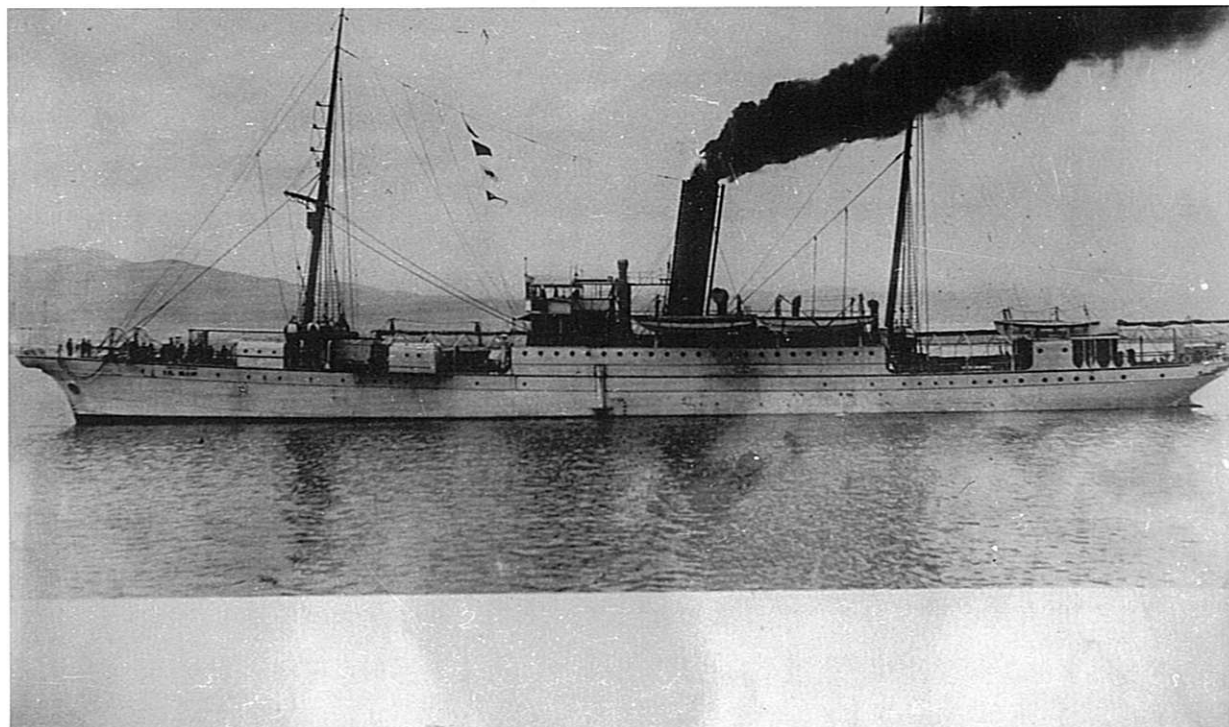


沖繩丸



主要目

建造所	英国、グラスゴー・ロブニッツ会社
進水年月	1896.2.18
航行区域	近海区域
総トン数	2,278トン
長さ	91.44m
幅	12.19m
主機関出力	1,936HP
速力(最大)	13.45ノット

わが国第1号海底ケーブルは、明治5年、関門海峡の前田～西ヶ窪間1.1kmにおいてドイツ人の指導により英国製1心GP海底電信ケーブルを敷設したのが最初であり、明治6年2月に、東京～長崎間で国内電報及び対外電報の取扱が開始されました。

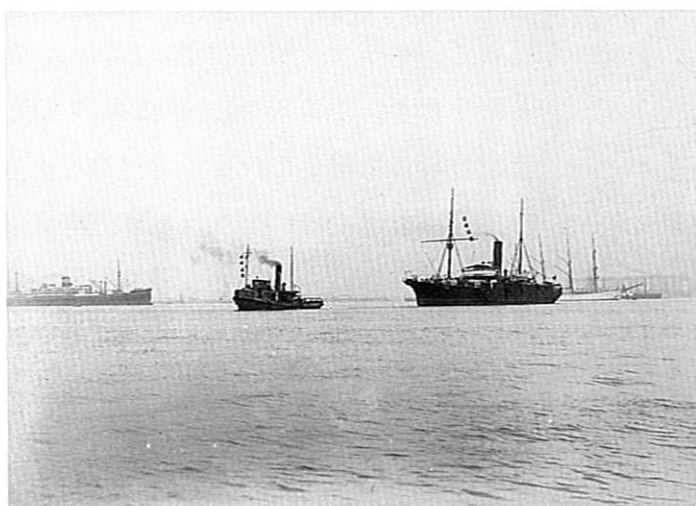
以後、各地で海底電信ケーブルの建設が進み、明治27年までには、約500kmの海底ケーブルが建設されました。当時の海底ケーブル建設は、大北電信会社(デンマーク)、または、灯台監視船「明治丸」、「灯明丸」を艦装し使用していましたが両船とも仮装船で十分対応ができないことや日清戦争の結果領有した台湾と内地間連絡用海底ケーブルを建設するため「沖繩丸」が建造されました。

本船の建造は、海底ケーブルの先進国、また、造船、海運国である英国に発注、当時としてはすべての面で最新鋭の海底ケーブル敷設船として就航しました。

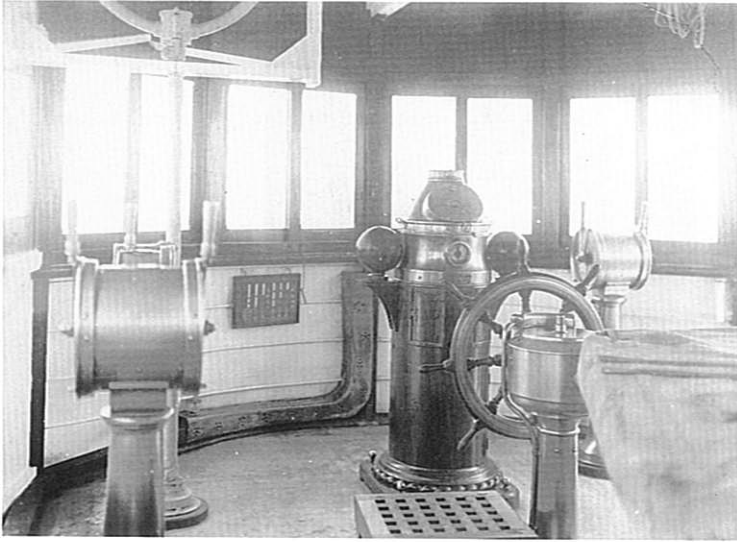
船名は、鹿児島～沖縄本島～石垣島～台湾を結ぶ大事業を完成させる要望を担って「沖繩丸」と命名されました。また、一説には、ケ

ーブルの字義である索、即ち繩にかたどって命名されたともいわれています。

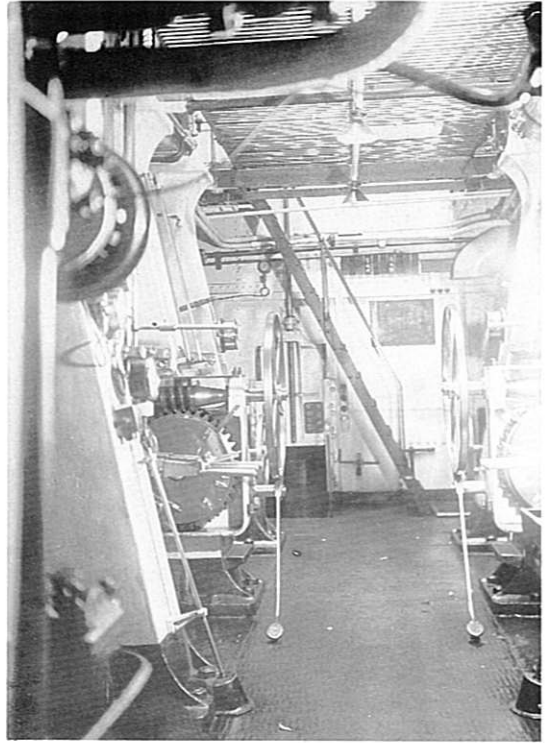
明治26年4月就航以来、激動の時代の約41年間、海底通信網の基礎を造りあげ、昭和13年7月引退するまで、当時わが国が所有する海底ケーブルの60%、約12,594km(6,800哩)を建設し、海底線の技術向上に大きな足跡を残しました。



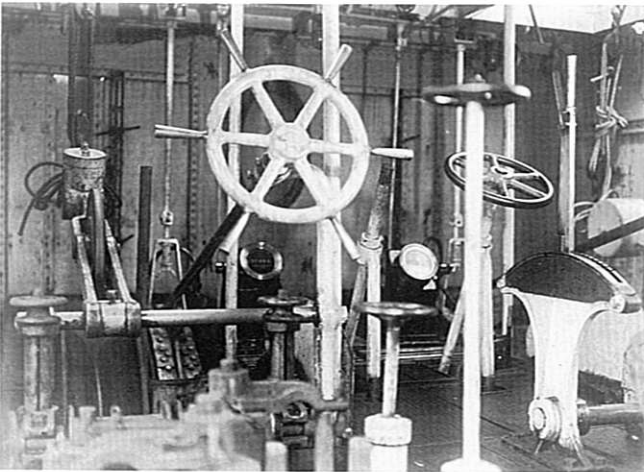
▲昭和13年7月、曳船に曳れて神戸港をあとにする沖繩丸。昭和14年10月大阪名村造船所にて貨物船に改造再利用された。



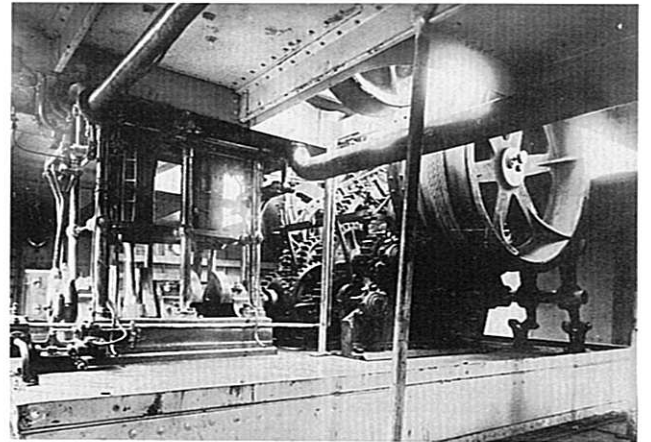
▲ 操舵室



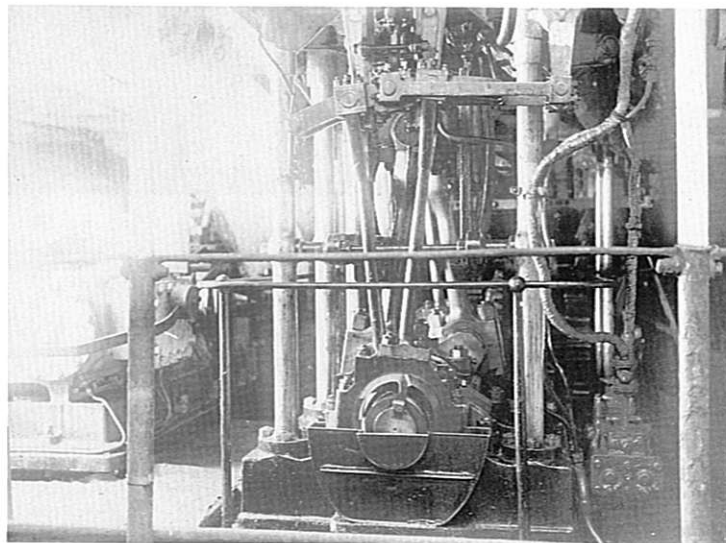
▲ 機関室



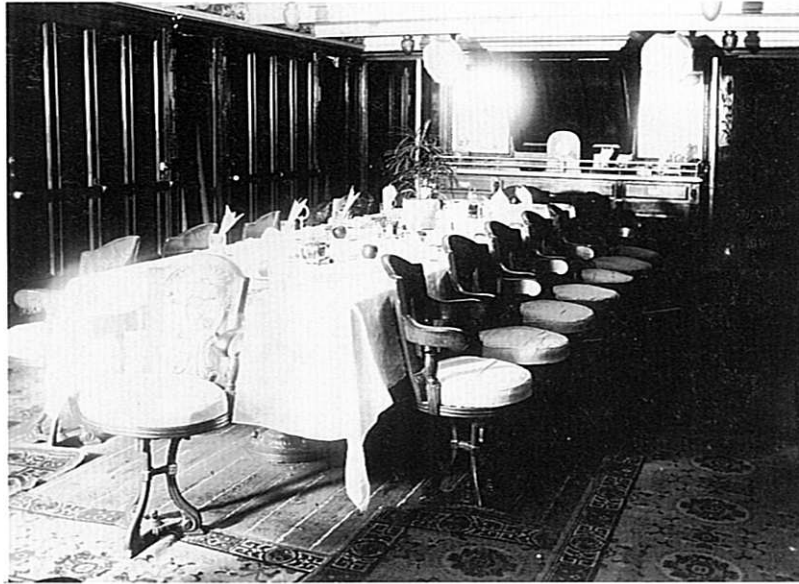
▲ ケーブルエンジン操従装置



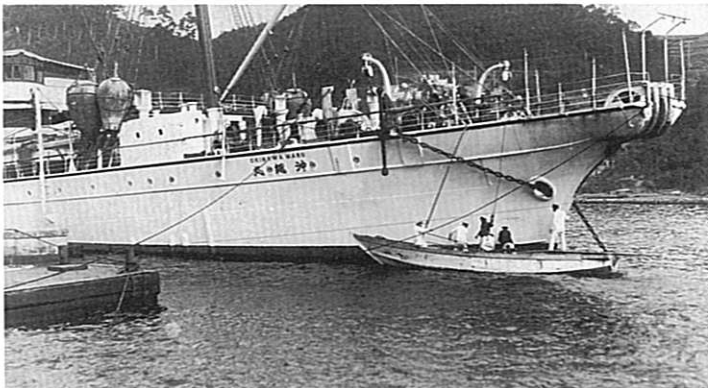
▲ 船首甲板下のケーブルエンジン
(ドラム直径約1.5m)



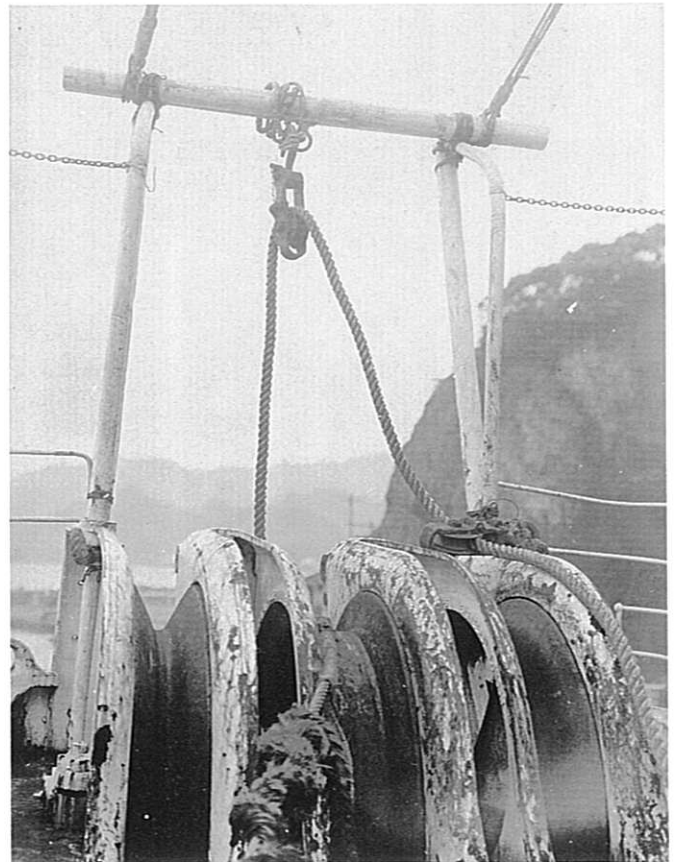
▲ ケーブルエンジン原動機



▲沖縄丸サロン



▲昭和11年11月19日、西泊岸壁落成後、初めて入港し係留中の沖縄丸。

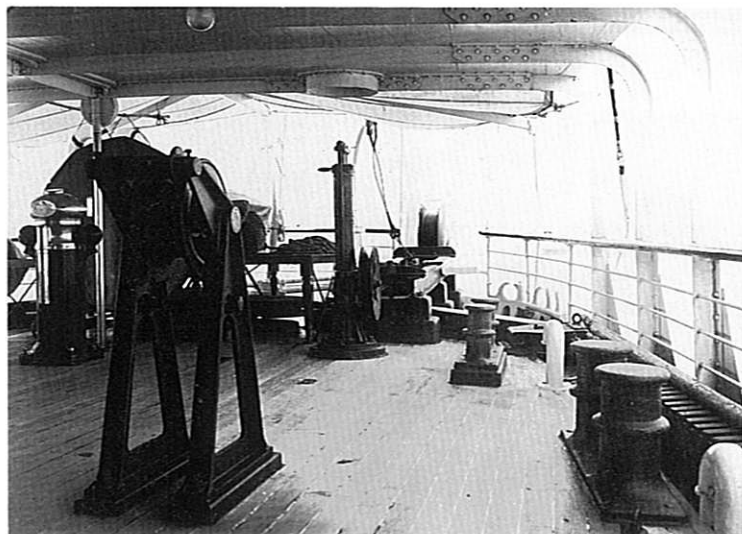


▲パウ・シーブ

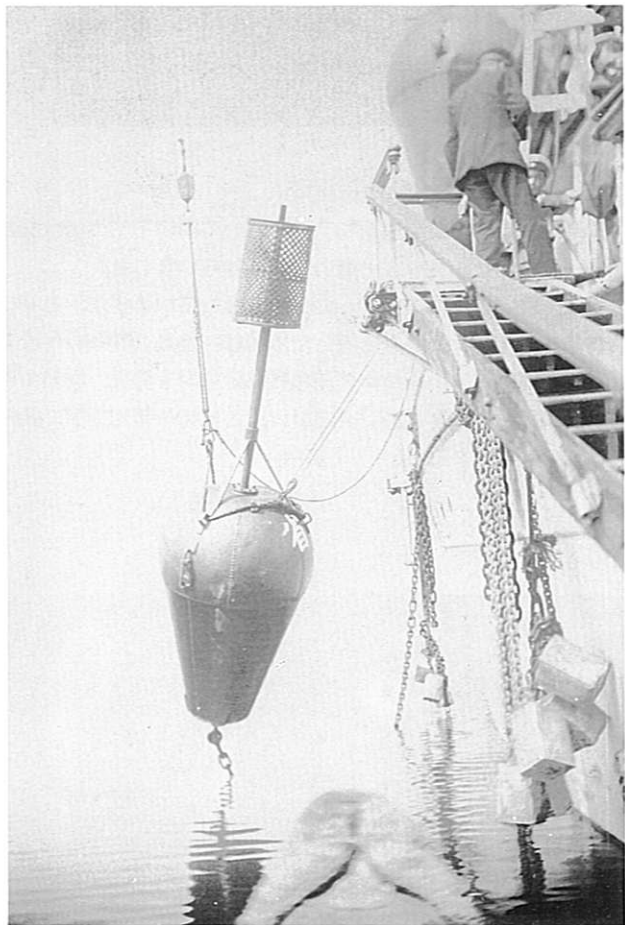


沖縄丸船尾、菊のご紋章に当時の活躍が偲れる。

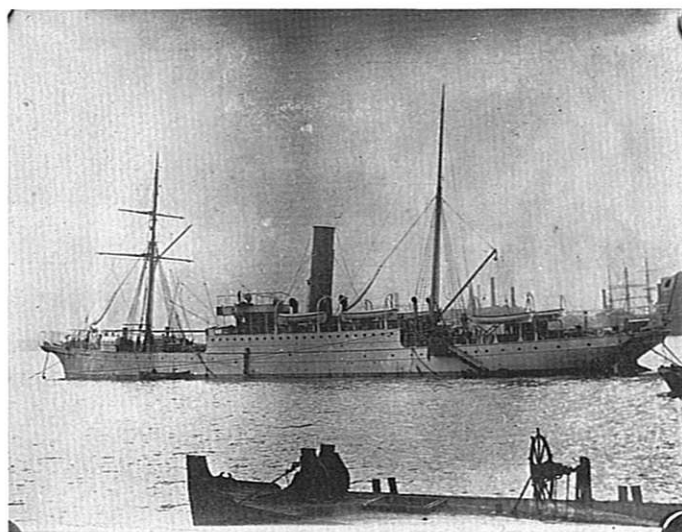
1927年10月30日、横浜港外で挙行された、改元第1回、海軍観艦式に軍籍のない本船が参列、これは本船の功績に対し、特に菊のご紋章が下賜されたためと考えられる。



▲船尾シーブと敷設装置



▲漁船操業警戒用ブイの設置



▲停泊中の沖縄丸



▲昭和11年1月～2月、上海南木道をケーブル敷設中の沖縄丸。
ジャックの間をぬうようにケーブルを敷設する。